



TOPIC

「第13回 南部弁の日」開催決定！

みんなして笑いながら
南部弁ば のごしていぐべし！
なっす！

南部弁ばなぐしたくねえ 残してじゃあ！
笑って、へずなく、感動のバラエティショーが今年も開催決定。
今年はどんな南部弁を愛する人達が集まるのか乞うご期待！
みんな来てけるな、一緒に楽しむべし！

南部弁の日

と き 2025年12月21日(日) 開演14:00 (開場13:30)
ところ SG GROUP ホールはちのへ(八戸市公会堂文化ホール)
入場料 一般前売 ¥3,000(当日¥3,500)
高校生以下 ¥1,500(前売・当日とも)

【チケット取扱】〈11月上旬発売開始予定〉

八戸ポータルミュージアム はっち・ラピア・デリー東北チケットセンター

livepocket(ネット購入)
https://t.livepocket.jp/e/nanbuben13
〈11月上旬取扱開始予定〉



お問合せ:スペースベン 田中勉
☎080-6025-0990(ショートメッセージ可)
※出られない時は折り返しお電話します
※お急ぎの時はSMS(ショートメッセージ)をご利用ください
Fax.050-3588-8350
e-mail owner@spaceben.com



写真は第12回南部弁の日より

〈開催予定〉はっちがずっぱど南部弁

と き 2025年11月30日(日)
ところ 八戸ポータルミュージアム はっち

〈theater information〉

暮らし学アカデミー
「謎の集団ICANOFってなに？」

かつて八戸で活動していた謎の集団「ICANOF」。当時の展覧会や活動について、メンバー自身が語るトークショーを開催。さらに「写真とは何か？」をテーマに問いかけるワークショップも。

〈ワークショップ〉

「写真の分解体験 一写真を考える、捉える」
【日時】2025.11.22(土)
10:30~12:00
【会場】はっち2F シアター2
【料金】入場無料(定員20名)
【講師】松川雄史(フォトセンター惣門)

〈トークショー〉

「ICANOFメンバーによるトークショー」
【日時】2025.11.22(土)
14:00~15:30
【会場】はっち2F シアター2
【料金】入場無料(定員80名)
【講師】亀本光弘

(ICANOFアートディレクター)
高沢利栄(ICANOF事務局長)
三浦文恵(ICANOFプロデューサー)
米内安芸(ICANOF代表)

※ワークショップ・トークショーは要予約。
はっちホームページ
https://hacchi.jp
から申込可能。

〈スペースベン 11月の予定〉

FANS 予定 第1657~1660回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

「だべり場」「かたり場」「ほだれ場」随時開催しています

〈Dance Lesson〉

- 毎週月曜日 18:00~19:00/HARU House dance Beginner
- 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL
- 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP

〈古典戯曲を味わう会〉

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。
■11/5(水)・19(水)開催(通常毎月第1・3水曜開催) 14:00-15:30予定。
※シェークスピア「テンペスト」を予定
※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

〈メンバーズカード〉

チャージ可能なプリペイドカードで、入場の際ご提示いただくと前売料金で入場いただけます。また、どの公演でも入場料から3%値引きいたします。チャージは現金でもクレジットカードでも可能です。



〈キャッシュレス決済〉

「PayPay」「ID」他、カード払いに対応しています。

●各詳細は080(6025)0990にお電話でご確認ください



https://hacchi.jp/programs/2/
kurashigaku/2025/05.html

〈展示〉

「ICANOFのこれまでがわかる展示会」
【日時】2025.11.20(木)~22(土)
9:00~21:00
【会場】はっち2F シアター2
【料金】入場無料

〈Free Column〉

劇場の
片隅から

文/安達 良春

もうすぐ新語・流行語大賞の発表の季節だ。ここ数年はあまり気にかけていなかったが、今年はちょっと気になっている。候補の中に「オールドメディア」という言葉を見つけたからだ。決して良い意味では使われていないこの言葉が選ばれる事はあるのだろうか？ 新聞・ラジオ・テレビに続いてネットがメディアの一角になっているのは間違いないが、「ニューメディア」と言っても良いのだろうか？ いか言葉の意味が広くなり、紙媒体も「オールドメディア」の仲間入りする日が来るのかもしれない。

【問合せ】はっち ☎0178-22-8228
hacchi@city.hachinohe.aomori.jp
https://hacchi.jp

特別寄稿

札幌ハムプロジェクト 全国縦断興行2025「ナゾのまじんきたる」

来年もお待ちしています

文/安達 良春



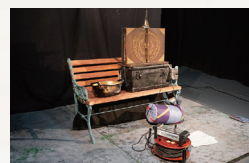
今年も札幌ハムプロジェクトがスペースベンにやってきた。札幌ハムプロジェクトは「車一台に小さな劇を乗せ、全国の小劇場を巡演」する全国縦断興行を行っており、来年で縦断興行20周年を向迎える。文章だと読み飛ばしてしまいそうだが、凄いことだ。

全国縦断興行。なんとも魅力のある響きだ。作品を作り、全国を回りながら公演する事に強烈な憧れを感じる。出来るものなら自分もやってみたい。しかし、作品を作る、旅の準備、各地の会場との打合せ、経費・収支の計算、そして普段の生活…と考えると、私は立ち止まってしまう。「やれる人、やれない人の違いはどこにあるのだろう」と毎回思いながら札幌ハムプロジェクトの作品を観ている。

今回の公演は、「ふたりだけでやる、「大人子どもげき」と銘打たれた『ナゾのまじんきたる』。「大人子どもげき」とは“大人も子どもも楽しめる劇”。今作に限らず、札幌ハムプロジェクトの作品は子どもでも楽しめる観やすさがある。ただ、テーマと思しきものは重い。すぐに答えが出せないような、返答に時間がかかるような、微妙なテーマを投げかけてくる。そして、その正解を観客に投げてくる事はしない。きっと札幌ハムプロジェクトも正解を探しているのだろう。それぞれが正解を見つけるまで観客の心の中に残り続け、札幌ハムプロジェクトは公演を続けるのだろう。

余談だが、札幌ハムプロジェクトはこれまで3人で全国を回っていた。しかし今回は2人。2人で仕込み、出演し、音響・照明を操作し、積み込んで次の公演場所へ旅立っていった。そんなところにも強烈な憧れを感じてしまった。

終演後に各地の文化芸術関係者とのアフタートークが開催された。八戸では田中勉さん(スペースベン主宰)と橋本佳織さん(バーニーズマウンテンドッグ、おとなエンゲキヴ、八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校演劇部顧問)が参加。それぞれが演劇に関わった頃の興味深い話を聞く事ができた。今回の全国縦断興行では全10都市で計12回のアフタートークが開催され、YouTube札幌ハムプロジェクトチャンネル(<https://www.youtube.com/@hampro>)でも公開されている。



■札幌ハムプロジェクト
全国縦断興行2025
「ナゾのまじんきたる」
2025.9.27(土)
スペースベン

●筆者近況

日が短くなった。本格的な冬はまだこれからだが、寒さも雪も喜ばない身としてはひたすら堪える季節だ。まあ、鍋好きでもあるし、鰯チリ・鯨汁・ドンコ汁と楽しみながら春を待とう。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか?

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください



Director

田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080(6025)0990 Fax.050(3588)8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>

crossingcafe

fanscross

crossingcafe

crossingcafe

@fanscafe



FANSってなんだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には“ここで何かおもしろい事をやっている”という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。